

月刊 ととろ



独立行政法人国立病院機構
いわき病院

第212号

令和4年1月発行

National Hospital Organization Iwaki National Hospital

信条

- ◆ 患者さま本位の医療を行います
- ◆ 患者さま及び家族の生活を大事にします
- ◆ 科学的根拠に基づいた質の高い医療を提供します



新春のご挨拶



明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いたします。今回の年末年始は日本海側を中心に強い寒波に見舞われ、この時期としては久々の大雪となった地域もありましたが、いわき市周辺は概ね晴天に恵まれました。雪国生まれの私としては、雪かきに追われる地域の方々の苦労をテレビで見るたびに、何となく申し訳ない気分になってしまいます。また先日の南岸低気圧通過の際には東京都心で10cmの降雪を記録したようですが、当地ではほとんど影響を受けませんでした。夏の暑さもさほど過酷ではありませんし、いわき市の位置の絶妙さを実感させられます。

この恵まれた環境に惹かれ、定年後にいわき市に移住してこられる方も少なくありません。私の外来にもそういった患者さんが時々お見えになります。快適な生活に満足されているとお話を伺うと、私まで嬉しい気分になります。ただ快適な生活を維持するためには種々のインフラ整備が不可欠ですし、医療もその一部であると言って良いでしょう。ところがいわき市の医療体制は決して盤石ではありません。平成26年のデータによると人口10万人あたりの医師数は168名ほど（病院勤務医は98.6）で、全国平均の231.5はおろか、福島県の平均186.0（129.3）をも大きく下回っているのが現状です。特に勤務医の不足は危機的な水準です。

このような状況下、しばらく鳴りを潜めていた新型コロナウイルスはオミクロン株への入れ替わりが進み、それに伴って再び感染が急拡大しているのはご存知の通りです。ここで重症患者が急増するようなことになれば、いわき市の医療体制は崩壊の瀬戸際に立たされます。また医療従事者の感染は本人だけの問題ではなく、医療サービス提供にも大きな問題を生じますので、職員の皆様には引き続き注意を怠らないようお願いいたします。新型コロナウイルス対策に気を遣う日々もそろそろ丸二年となり、いい加減うんざりしている方も多いことでしょう。私もその一人ですが、ここが辛抱のしどころです。今しばらく油断せずにこれまで通りの生活を継続していきましょう。

いわき病院が現在地に移転して早くも三年が経ちます。今後は年ごとに旧病院のことを知らない職員が増えてくることと思いますが、東日本大震災で被災した当時の記憶は風化させたくないものです。災害はいつ襲ってくるかわかりません。万一の場合に迅速・的確な行動ができるよう、日頃から準備を怠らないことが重要です。患者さんに信頼される病院を目指し、今年も職員一同結束していきましょう。

院長：関 晴朗



ハラスメント研修の開催について



国立病院機構においては、独立行政法人国立病院機構ハラスメントの防止等に関する規程の制定及び研修等によるハラスメントの防止対策を種々行っており、当院においても前述の研修を受けた職員による伝達研修による周知を行っていましたが、ハラスメントの種類や背景が多岐にわたることから、伝達研修では厳しい面もあり、良

い方法を模索していたところ、北海道東北グループから講師を派遣するとの情報を得て、12月17日（金）13時30分から、講師に北海道東北グループ 佐藤参事（労務担当）をお迎えし、ハラスメント研修を開催いたしました。

研修は「パワーハラスメント」に特化した内容となっており、研修資料も国立病院機構に一致したパワーポイントにより行われました。事例検討も交えながら、機構病院内で想定される事例を詳しく説明していただき、参加した職員も日常業務と重ねて、真剣に聴いていました。

病棟の入浴日と重なってしまったため、参加人数は50名弱と多くはありませんでしたが、全職場から出席者がありました。業務多忙のなか、出席いただいた職員の皆様、お疲れ様でした。

最後に紙面を借りまして、年末の忙しい時期にも関わらず講師をしていただいた佐藤参事並びに講師を派遣して下さった北海道東北グループにお礼を申し上げますとともに、今後も、ハラスメント発生の防止に務めていきたいと思っております。

事務部長：鈴木 和秀



Merry Christmas

いわき病院クリスマス聖歌隊



クリスマスの恒例イベントになりました「クリスマス聖歌隊」が、12月22日に行われました。午後2時にスタートし1病棟、2病棟、3病棟の順に職員14名で結成した聖歌隊が巡って行きました。今年は☆もみの木☆もろびとこぞりて☆遠く遠く☆赤鼻のトナカイ☆ツバメ（ダンス）の5曲を、ハンドベルの演奏や、歌やダンスで披露しました。槇原敬之さんの「遠く遠く」の歌詞には、コロナ禍で面会や外出が出来ず、家族に会えない寂しい気持ちや、その中でも希望を見出し力いっぱい頑張っていこうという思いを重ねて、心を込めて歌いました。最後には今年入職した職員を中心に YOASOBI さんの「ツバメ」というダンスを踊りました。みんな可愛いらしくクリスマスの雰囲気盛り上げてくれました。短い時間ではありましたが、少しでも入院患者さんの心に温かいメッセージが届いているといいなあと思います。

療育指導室 主任保育士：小野寺 亜紀



「フレーベル館」様から絵本の寄付を頂きました



クリスマスが近づいた12月中旬、いわき病院に大きな段ボール箱が届きました。

中には、子ども向けの絵本が60数冊入っていました。それは、コロナ禍で、面会や外出などが制限されている病院や施設に入所している子ども達を元気づけようと「株式会社 フレーベル館」様から届いたプレゼントでした。当院ではクリスマスプレゼントとして、重症心身障害児者病棟で紹介し、みんなで見る事にしました。シール絵本やしかけ絵本などもあり、患者さんと一緒に絵本を開くのがとても楽しみです。

この場をお借りして、「フレーベル館」様に心より感謝申し上げます。素敵な贈り物をありがとうございました。
 療育指導室 主任保育士：小野寺 亜紀

いわき病院の診療体制等について

- 診療科目 内科、脳神経内科、外科、脳神経外科、小児科（小児神経疾患）、リハビリテーション科
- 外来受付 8:30～11:30（ただし、急患につきましては電話にてご相談下さい。）
- 診療時間 8:30～17:15

外来担当医師診療日程表 【平成31年4月～】

区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	診療室① 鈴木 診療室② 市原	診療室① 無量井(第2)	診療室① 鈴木 診療室② 齋		診療室③ 仙台医療センター
	診療室③ 尾田宣仁	診療室③ 會田隆志	診療室③ 尾田宣仁	診療室① 関/會田 (交代制)	診療室① 関 晴朗
外科				診療室② 田崎 博	
脳神経内科専門外来（予約制）					
午後	神経難病 神経筋疾患 《診療室①》		(脳神経内科) 関 晴朗		
小児神経外来（予約制）					
後	小児神経外来 《診療室①》	(小児科) 柳沢俊郎			(小児科) 柳沢俊郎



■ お知らせ ■

◆患者相談窓口

患者さんやお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談窓口』と『ご意見箱』で対応しています。なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

◆当院受診について

他の医療機関に通院中の方は、主治医の先生に当院地域医療連携室を通して診療予約をとって頂いた上で来院願います。



発行元 **独立行政法人国立病院機構 いわき病院**
 National Hospital Organization Iwaki National Hospital
 責任者 院長 関 晴朗
 所在地 〒971-8126 福島県いわき市小名浜野田字八合 88 番地 1
 TEL 0246-88-7101 FAX 0246-88-7075
 ホームページ <https://iwaki.hosp.go.jp/>